

第16回勉強会 報告書

相模原市における 2019年台風19号被害からの教訓

開催日：2023年6月18日（土）

記録： かながわ「福島応援」プロジェクト（kfop）

作成： かながわ「福島応援」プロジェクト（kfop）

2024年1月12日発行 不許複製・禁無断転載

1. はじめに

2019年10月12日に日本に上陸し、各地に甚大な被害をもたらした台風19号(令和元年東日本台風)では、神奈川県内でも11市7町1村(合計19市町村)に災害救助法が適用されました。中でも、川崎市と相模原市では災害ボランティアセンターが設置されたことは記憶に新しい出来事でした。

今回の勉強会では、相模原市での災害ボランティアセンター運営にかかわった講師をお招きし、当時の事例と課題を共有していただきます。また、参加者の皆さんにも、それらの課題について考え、意見交換していただく時間を設けました。

第16回勉強会は、kfop第12回総会終了後に開催しました。会場での出席者のほか、Zoomによるオンライン参加者にも、後半のグループワークにご参加いただきました。

《講師プロフィール》

三田 響子(みた きょうこ)さん

所属: 2000年4月 城山町社会福祉協議会

2007年3月 市町村合併により相模原市市社会福祉協議会に転籍

現在は相模湖地域事務所 CSW、生活支援コーディネーター、地区社協、事務所運営担当

災害ボラセン経験

2004年 新潟県三条市水害 災害VC支援

2011年 東日本大震災(岩手県大槌町、釜石市)災害VC支援

2015年 相模原市内の大雪によるボランティア受け入れ対応

2015年 常総市水害 ボランティアバス引率

2019年 台風第19号(東日本台風)災害ボランティアセンター立ち上げ、運営担当

2. 開催概要

(1) 日時・式次第

開催日時 2023年6月4日(日)15:00～17:00
会場 新横浜ホール第1会議室(定員40名)+Zoomによるオンライン参加
神奈川県横浜市港北区新横浜3-19-11 加瀬ビル882階
講師 三田 響子さん
社会福祉法人相模原市社会福祉協議会 相模湖地域事務所 主査
主催 かながわ「福島応援」プロジェクト(kfop)
協力 かながわ災害ボランティアバスチーム

式次第

[あいさつ・全体説明]..... 15:00～15:05
あいさつ:かながわ「福島応援」プロジェクト 代表 渡辺孝彦
進行:かながわ「福島応援」プロジェクト 広報 東

[話題提供]..... 15:05～15:45
相模原市社会福祉協議会 三田 響子さん

[質疑応答]..... 15:45～15:55

[休憩]..... 15:55～16:05

[グループワーク]..... 16:05～16:25

[グループ発表・講師コメント]..... 16:25～16:45

[閉会あいさつ]..... 16:45～16:50
かながわ災害ボランティアバスチーム 代表 荒井さん

(2) 参加者実績

勉強会 横浜会場 14人(講師、スタッフ含む)
オンライン 5人(途中退出者含む)

3. 相模原市における 2019 年台風 19 号被害からの教訓（話題提供）

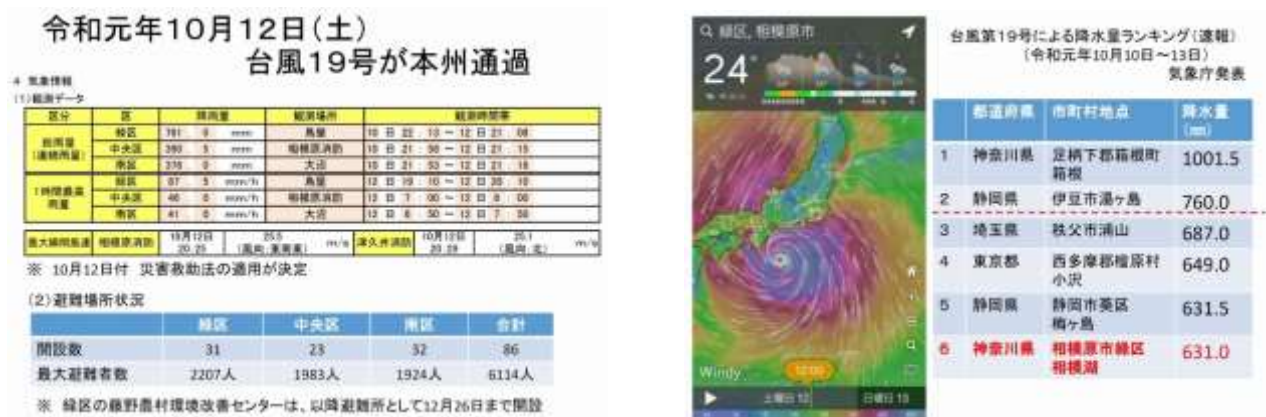
はじめに、講師の三田さんからスライドを使って当時の状況をお話しいただいた。運営側の視点から見た貴重なお話を伺えた。以下、概要を示す。

■台風 19 号による被害状況

令和元年(2019 年)10 月 12 日(土)に台風 19 号が本州を通過。緑区鳥屋(津久井)では連続雨量としてはかなりの降雨量となった。10/12 付けで災害救助法の適用が決定し、自衛隊ほかさまざまな機関が動き始めた。開設された避難場所は今までにない数に上り、緑区、中央区、南区を合わせて 86 か所だった。ほとんどは短期間で解散したが、藤野では帰宅が難しい住民がおられたため避難所として 12/26 まで開設した。

気象庁発表の 10/10~10/13 の降水量ランキングでは相模原市緑区相模湖が 6 位に入っていた。1 位は神奈川県箱根町だったが、箱根町では災害 VC は開設せず近所での助け合いで被災者宅を支援することになり、神奈川県社協が支援に入った。

相模原市では緑区を中心に土砂崩れ、浸水等により甚大な住家・人的被害が発生した。自衛隊災害派遣により安否不明者の捜索・救助活動、停電解消のための道路啓開、倒木等の除去に対応していただいた。



■災害ボランティアセンターの設置

「災害時における社会福祉法人相模原市社会福祉協議会の協力に関する協定」に基づき、相模原市からの要請を受け、10/17 付けで津久井、相模湖、藤野の 3 地区に災害 VC を設置。

10/14 に 4 地域の被害状況の確認に行った。歩けないぐらい道路に土砂が堆積しているところもあった。10/15 が発災後の最初の平日だったので、市役所と市社協で災害 VC 開設に向けた打ち合わせを実施した。ちょうどこの頃、台風 15 号で被害があった千葉県への職員派遣調整を相模原市社協が担当しており、その調整もしながら、市内での災害 VC の立ち上げもしなければならない状況だった。ニーズ把握のために民生委員等への協力依頼のほか、運営準備として、開設場所の手配、コピー機などの資機材調達、書式の準備、情報発信、行政との打ち合わせなど、大慌てで準備した。開設してすぐにボランティアに活動してもらえるわけではなく、まず現地の状況を把握しなければならないので、最初の 2 日間はニーズ調査をした。10/19 は受付開始したが雨天で中止、10/20 に活動開始となった。

一般に災害 VC は、一か所で運営や判断、ニーズの受付、資機材の準備、活動の受付と送り出しまでして

いるイメージであり、マニュアルでも相模原市役所の近くに災害 VC を開設する前提になっていた。しかし、市社協の本部から一番遠い藤野まで 27.5km ある。市役所の近くから津久井などへボランティアを送るのは難しい。中央道の通行止め、車両の駐車スペースなどを考慮して、3 地区と行き来しやすい場所 1 か所に開設して土日に集中してボランティアを派遣するという案もあったのだが、結局、現地 3 地区で平日も災害 VC の窓口を開けるようにという行政からの要請があった。

災害ボランティアセンター開設までの動き

10月12日(土)	台風第19号 本州上陸
10月13日(日)	VC 職員出動(日曜対応)
10月14日(祝)	4地域 被害状況確認
10月15日(火)	市役所と市社協にて、災害ボランティアセンター開設に向けた打合せ
	・ニーズ把握のため 民生委員・児童委員への協力依頼 ・VC運営準備(開設場所・書式・資機材調達(ボラセン運営用、ボランティア活動用・チラシ(ボランティア依頼者向け・ボランティア活動希望者向け)・地元団体との打合せ・ホームページでの情報発信・行政との打合せ・メディア対応…
10月17日(木)	相模原市災害ボランティアセンター 開設
10月19日(土)	災害ボランティア受付開始 (雨のため中止)
10月20日(日)	災害ボランティア活動開始初日

センター設置場所

- ・津久井地区センター 津久井総合事務所内(緑区中野)
- ・相模湖地区センター 相模湖総合事務所内(緑区与瀬)
- ・藤野地区センター 藤野総合事務所内(緑区小浜)



3地区同時開設、運営(センター長は各地域事務所長とした)

■災害 VC の運営

3 か所での同時運営は本当に大変だった。市社協本部では行政との調整や物資の調達、パソコンの手配など、現地は現地で、問い合わせ対応、ボランティア対応、取材対応などで苦労があったと聞いている。開設期間は10/17~12/12の57日間で、うちボランティア受入は27日間。市社協の職員は50人程度しかいないが、延べ498人が災害VCに入った。市役所職員は延べ210人が運営支援にあたってくれた。県内市町村の社協からの派遣は延べ33人、災害ボランティア活動支援プロジェクト会議(支援P)からも派遣があり心強かった。主な運営協力団体は、相模原市、津久井青年会議所、津久井商工会青年部、相模湖商工会青年部、藤野商工会青年部、相模原市赤十字奉仕団。赤十字奉仕団からは、長靴の消毒などについてもアドバイスを頂いた。

寄せられた相談と対応件数は、敷地内の土砂の片づけ、土砂の流入防止、ブルーシート張り、家財の移動等で、3地区合計で227件あった。ボランティア活動者数は3地区合計で3,454人。津久井、藤野、相模湖は山梨県との県境に位置することもあり、活動者は市内に限定しないで、宿泊せず日帰りできる方を募集した。開所当時は個人ボランティアが圧倒的に多かったが、徐々に団体も増え、リピーターも多く来ていただいた。活動者の地域別の数字を出したところ、市内よりも市外が多かった。

災害VCでは主にブログやツイッターを通じて情報発信していた。Facebookも活用したほうがいいとアドバイスも頂いたが、組織的にそれはできなかった。一度に大勢のボランティアを受け入れてもニーズを紹介できないケースもあるため、ニーズの調整に最も心を砕いた。活動者は土日を中心に受け入れ、土木系の団体には平日にお願いすることもあった。

津久井では、たくさんの車と人が来て現場に移動しているのを見て、被害のなかった地区の人は「何が起きているのか」と不思議に思ったという話も聞いた。ブログやツイッターで情報発信はしていたが、地域の高齢者の方に伝える機会がなかなかなかった。それでも自治会や民生委員を通じて周知をお願いし、チラシを作成してお渡しした。被災しても「周りも大変だから」となかなか声を出さない方も多いことから、「何か困っているお宅はありませんか?」という声掛けもお願いした。近隣でボランティアが入ってきれいに片付いたお宅があると、「じゃあ家もお願いしようか」という気持ちになることもある。

寄せられた相談と対応件数

◎ 支援内容(主なもの)

- ・居宅内に流入した土砂の片づけ、土砂の流入防止
- ・ブルーシート張り
- ・家財の移動

等

◎対応件数(10/17~12/12)

項目	相談件数	内 訳			
		完了	継続	保留	他対応等
3地区合計	227	173	3	9	42
津久井	134	112	1	3	18
相模湖	37	31	1	0	5
藤野	56	30	1	7	19

ボランティア活動者数

地区等	活動者総数	個人活動者数	団 体	
			団体数	活動者数
3地区合計	3,454	2,502	105団体	952
津久井	1,987	1,437	68団体	550
相模湖	752	588	13団体	164
藤野	715	477	24団体	238

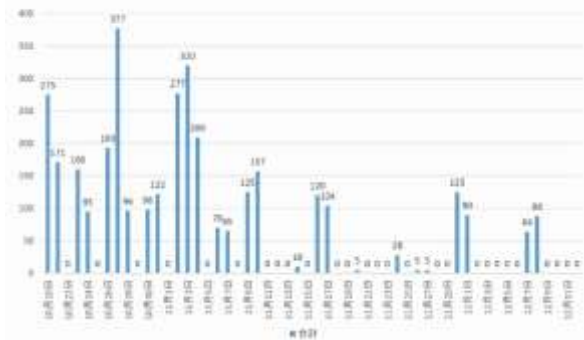
■ボランティア活動者は市内に限定せず、日帰りできる方を募集、県外からも多くの方が来てくださった(九州・奈良・千葉・静岡・山梨・愛媛・・・)

■閉所当時は個人が圧倒的に多かったが、徐々に団体に活動して下さるところも増えた。ボランティアバスの受け入れも有り。リポーターも多く存在した。

■災害 VC の閉所

ボランティア数や依頼件数が減ってくると、運営と並行して、災害 VC の機能変更の時期について検討する必要がある。各センターで完了状況の確認作業を行うのだが、各地区の自治会や自主防災組織、青年会議所などの協力を得て、現地の方々の視点から確認していただいた。11/22 に相模原市により復旧・復興基本方針が出され、12/10に相模原市災害対策本部が廃止されることになった。そのタイミングで市と協議して、災害 VC を閉所し「ささえあいセンター」を開設することを決めた。災害 VC の閉所後も拠点の撤収や災害ボランティア活動の調整は細々と続いた。ささえあいセンターは、孤立・孤独を生まないための方策として設置し、被害が大きかった地域の仮設住宅や避難された方の見守り支援を行う。ささえあいセンターは国で年限が3年と定められているため、令和3年度末で閉所した。

ボランティア活動者のピーク(合計)



ささえあいセンター移行までの動き

11月中旬～	ボランティア依頼件数の様子を見ながら、災害ボランティアセンターの機能変更時期についての検討開始
	各センター… ニーズ完了状況、あらたなニーズの再調査 協力: 各地区の自治会、自主防災組織、青年団体等
	移行後のボランティア対応に関わる団体登録の準備
	移行後のセンター事業についての調整
11月22日(金)	相模原市 復旧・復興基本方針提出
12月10日(火)	16:30 相模原市災害対策本部 廃止
12月12日(木)	市との協議結果により、災害VCを移行
12月13日(金)	城山地区含む4地域事務所に「ささえあいセンター」開設
以降	災害VC撤収作業 (利用拠点原状復帰・資材返却等) 災害ボランティア活動調整
令和3年度末	ささえあいセンター閉所

■災害後の取り組み

災害ボランティア運営マニュアルの改訂:旧マニュアルでは緑区での災害 VC 設置が想定されていなかったこと、また、多くの災害を経て VC の運営が進化していることもあり、全面的に見直した。新しいマニュアルは、発災時に誰でも使えるようにしたいと考え、「備える編」「その時編」「資料編」「業務マニュアル編」として相模原市社協ホームページでデータを公開している。自分が災害 VC を立ち上げたときに、マニュアルが PDF だったことで内容や書式を一から入力しなければならなかった経験を踏まえて、様式集は Word や Excel など流用できる形式にしている。

災害時相互協力連絡会議の開催:青年会議所や商工会青年部、赤十字奉仕団など、災害 VC の運営に関わった団体の平時からのつながりづくりのために開催している。初回は研修会を開催した後に連絡会議を実施し、その後も「顔の見える関係」を作るため年に1回は開催している。

随時活動(災害時の協力依頼)のためのボランティア団体登録ページの作成:災害 VC 閉所後に随時活動が発生した場合に、個人ボランティアを集めるのはなかなか難しく、また知っている団体に依頼することで安心感も得られるだろうと、団体登録ページを作成した。

■社協がなぜ災害 VC を担うのか

- 社協の職員は災害の専門家ではないが、災害時、災害後に向けて「普段の暮らしの幸せ」を取り戻していく役割がある。
- いざというとき、知らない人は助けにくいから、日頃から知り合いになっておくために何ができるか、普段から関わりを持っておく。
- 災害後に不安や孤独になり、せっかく助かった命が再び危険にさらされないように、住民と一緒に何かをする。
- 再び来るかもしれない災害に備えて後悔を少なくするために地域の中で準備する。

災害が起こったときに、自分の身は自分で守る(各自が災害に対し準備しておく)のは基本だが、自分の身を守れない人たちも地域には存在する。自分の身は守れても、自分だけで解決できないこともたくさん出てくる。「自分たちの身は自分たちで守る」という災害に地域をつくる、一人ひとりのかけがえのない命をみんなで支え合うために準備しておくことが大切。そのために社協が災害 VC を担うのかなと考えている。

災害の前には戻れない。なかったことにはできない。災害は何度も起こるが同じ災害は二度と起こらない。災害と災害の間(災間)の日常をどのように作っていくかが、今の課題。

災害が起こった時に

自分の身は自分で守る

各自が災害に対し準備しておくこと

それだけでなく

自分たちの身は自分たちで守る

一人ひとりのかけがえのない命を
みんなで支え合うための準備をしておくこと

災害を、なかったことにはできない

そして同じ災害は2度と起こらない

被災後の日常(災間)を
どのように作っていくかが
今の、相模原市社協の課題です



第16回勉強会 報告書



話題提供



グループワークの発表



グループワークの発表



終了後の懇親会

4. グループワークと講師コメント

後半は3~4人ずつにわかれてグループワークをおこなった(オンライン参加者は1グループ)。

はじめに、もう少し掘り下げて話したいと思った点をそれぞれ付せんに書き出しておいてもらい、グループにわかれたら、1人1分程度で自己紹介とトピックの共有をしていただいた。

次に、グループで出たトピックについて話し合ってもらった。その際、自分と異なる考えであっても、まずは最後まで聞くこと、「なぜそのような意見が出るのか」考察し、そのうえで意見交換するよう心がけるよう事前説明した。

グループワークの終了後に、各グループの代表者から、話し合った内容を発表していただき、講師の三田さんからコメントしていただいた。グループワークで取り上げなかったトピックや、時間内に発表できなかったトピックについても、三田さんからコメントを後日頂戴してまとめさせていただいた。

以下、グループワークで挙げたトピックとコメントを示す。

民家の片づけとは異なる、畑などの土砂被害のケースで、ボランティアと業者が競合する可能性について議論したが、災害VCで判断したニーズであればそれを信じて作業しましょうという意見があった。

現場でいろいろなニーズが出てくる場合については、ケースバイケースで班長が判断して後で報告すればいいのではないかと感じた。

東日本大震災のときも漁業支援や農業支援などのボランティアがあり、それは仕事の支援になるが、仕事が再開できなければ生活がままならないという意味で、行政とは異なるボランティアの立場を活かすという意味で、ゆるやかな考え方でいいのではないかと感じた。

⇒ボランティアと業者が競合するケースは実際にあり、業者に土砂の除去作業をしてもらおう仕組みができたときに、行政側は「業者は時間が掛かるから災害ボランティアセンターに頼んだほうがいい」と言ったりする。活動者はたくさん来ているのでそれでもいいが、仕組みがあるのにボランティアが入ることにに関して、誰も決められない。依頼者がどうしたいのかで決めたり、調整の都合でやれるやれないがあったり、一概には言えないが、そういう仕組みがあるのなら活用したほうがいいのではないかと感じた。また、屋根上や床下の作業、重機による作業をどうするか、倒壊の危険があると判定が出ている家屋から家財を運び出す作業をどうするか、決めきれないまま、対応する人の判断になってしまうことがある。現場はそれで成り立っているところがある。

ニーズ調整のしかたや、ささえあいセンターでの対応について、もう少し話を聞きたかった。

⇒ニーズ調整のしかたとしては、携帯電話事業者からの無償貸与を活用して電話で受け付けたり、民生委員の協力を得て現地調査をしたりした。土砂災害の場合、水害とは異なり、地域全体が被害を受けているわけではない。土砂災害が起きたところに状況を聞きに行く際に、その周辺にも声を掛けていた。ささえあいセンターについては、被災した世帯に対応した際のデータを元に、その後の様子を聞きに行った。相模湖地区については、一定以上の被害があった世帯に社協から災害見舞金を出していたが、それが100軒ほどあったので、電話で状況を伺い、必要に応じて訪問したり支援につないだりした。

自分は相模原市に住んでいるが、社協が普段どのような活動をしているのか情報が入ってこない。賃貸住宅などで自治会に入っていない場合、おそらく支援や物資などの情報が入らない。実際に災害が起き

たときに混乱が生じるのではないかと危惧している。

⇒市社協では広報紙を作成し、新聞への折り込みや公共施設への配架をしているが、賃貸住宅で自治会に入っていない人や未就学児がいる年代には情報が届きにくいかもしれない。すべての人に情報を行き渡らせるのは難しく、また、自治会に流している情報がすべてというわけではない。関心のあることは自分から情報を取りに行くことも必要ではないかと思うが、情報が行き届いていない点については社協としてももう少し考える必要がある。

社協、災害 VC、災害ボランティアネットワークはそれぞれどのように役割が違うのか。
相模原災害ボランティアネットワークの役割が見えてこない。

⇒災害 VC については、市からの要請に基づいて社協が市と協力して設置し、災害ボランティアネットワークに災害 VC をお手伝いいただく形になっている。ただ、元々の想定は、旧相模原市に VC を設置するものだった。災害ボランティアネットワークは旧相模原市を中心とする団体であるため、津久井の地域性を知らないということはあった。とはいえ、資材の受け入れと運搬、地区での運営支援など協力してくださる方はたくさんいた。

また、日頃からの取り組みとして、相模原市には 22 の地区社協があり、各地区で防災講座などを開催して地域の人たちと一緒に災害時の動きを考えている。防災というキーワードの企画には関心が集まりやすく、自治会の方もすぐに参加してくれる。

中学生や高校生が担えることは？学校教育で防災を学んでいるか？

中高生は地元において力を発揮できる存在だと思うが、相模原市として災害時に活躍してもらおう仕組みはできていない。福祉教育のプログラムとして、災害ボランティアネットワークと協力して、学校で災害用のテント設営や訓練をすることはある。

逗子市の例ではあるが、東日本大震災の後から、一般市民や子どもから参加者を募り、津波から逃げる大会を開催している。地域性もあるので、相模原でどのようなプログラムができるかこれから考えていく。

河川に大量に流木が発生した理由は？倒木のみか？

山から土砂が流れたことで山林からの流木が多く発生した。ダムが 2 つある地域なので、土砂や木がダムに流れ込んだが、途中の支流にも流木がたまっていった。津久井湖や相模湖の表面に浮かんだ流木の撤去にはかなり時間が掛かった。普段の台風でも同じようなことは起こるので、地形が関係している。

災害ボランティアの受付はオンライン化も進んでいるが、オンラインで申し込みができない場合に、とにかく支援したいという気持ちでいきなり現地に行き、受付などで混乱を招くこともある。受付の効率化のアイデアは何かあるか。

相模原の場合はオンライン受付をせず、前日にブログに募集状況を掲載し、定員に達したら受付を終了する形にした。このため、せっかく来てもらってもお断りすることはあった。ボランティアを現地まで移送する必要があるケースや、資機材の貸し出しが必要なケースでは、追加で派遣できないこともあるので難しかった。

ボランティア登録の管理は、初回参加時に受付で必要な情報を記入してもらい、後でデータ入力していた。効率化のアイデアはあまり持っていない。サイボウズなどのシステムは日々進化しているが、予算の都合

もあるので検討の必要がある。

災害 VC を通しての活動となると、特に初動期には安全確保が必要であること、いろいろな人が来る中で、活動先でのことも考えなければならない。コロナ禍のこともあり、今後は、いきなり行って活動するというのは難しくなるのではないか。

行政との関係でギャップがあったというのは、具体的にどのようなことか。

行政とは資機材の協定を結んでいるので、資機材の確保や備蓄の融通をしてくれるのかと思っていたが、実際には交渉しなければならなかった。その当時は土のう袋が売り切れていたが、市からは融通してもらえず、取引のあった事務用品店に遠くから取り寄せてもらったことがあった。

都市部では自治会や子ども会のようなコミュニティが弱くなっている中で、地域の情報はどのように集めるのか。皆が社協とつながりがあるわけではない。平時に地域とのつながりの構築はどうやっているのか。

自治会や老人会が解散することは増えていて、地域内の団体も力が弱くなっている。津久井地域は地区内のつながりは強いが、高齢化率が高い。特定の組織に声を掛けるというよりは、啓発を続けることしかできない。災害が起きたときには、何かできることをしたいという声が地区社協の中から出てくる。見守り隊などの仕組みを作り、メールでの一斉連絡の訓練をしたり、災害後にセミナーを開いて風化させない取り組みをしたりすることに、意味があると考えている。

水害の場合は地域全体に被害が発生するが、そういう場合はどのように対応するか。

マニュアルは整備しているが、災害の状況は毎回違うので、起こってみないと分からない。どの地域で何が起こったのかを把握して、その都度対応していくしかない。そのために、日頃から関係を作っておく。

■その他の感想とトピック

河川の増水を市民が知る方法は？

日頃から市民に災害情報をどのように伝えているのか、どんな情報を伝えるか。

災害 VC の3か所同時開設の要請は、どのような理由で、誰がどのような権限で出したのか。

災害 VC の設置・運営マニュアルの作成はどこがどの役割なのか？（社協？）

消防団、町内会、自治会はどのような役割を担ったのか。

「自分は自分で守る」が基本として、では、自分で自分を守れない人をどう守るのか？

災間におけるコミュニティの作り方

以上

別紙 参加者アンケート集計結果

参加者数	19
回答数	7 (39%)

1. 今回の勉強会の内容について満足度を教えてください

1-a. 満足できた	6
1-b. 期待と違っていた	1

(コメント欄)

- ・ 社協の方の生の声を聞くことができた。
- ・ ボランティアセンターのニーズ調整について良く分かりました。ボランティアセンターとその後の支え合いセンターについて理解が深まりました。
- ・ もう少し時間がゆるせば、課題に対するアプローチについて、もっと聞きたかった。
- ・ 相模原市での災害の発生から、市、市社協の協議、3地区の災害ボランティアセンターの設立、ニーズの収集、ボランティアの数や活動状況、協力団体との繋がり、災害ボランティアセンターの閉鎖とささえあいセンターの設立、災害後の支援、反省とよく話され、資料もよく整えられ、大変すばらしく、貴重な講演の勉強会でした。ありがとうございました。
- ・ 災害 VC の運営に実際に携わった方からのリアルなお話をお聞きすることができた。

2. 勉強会の構成と進め方について満足度を教えてください

1-a. 満足できた	6
1-b. 期待と違っていた	1

(コメント欄)

- ・ ワークショップがあまり機能しなかったのではないかと？ 講演の内容からはグループ討論しやすい課題が出にくいと感じた。
- ・ 講師の説明とグループワークの組み合わせは、詳しい方からの解説も聞いて良かったです。
- ・ グループディスカッションの時間が短い気もしたが、逆にダラダラしなくてよかった。
- ・ 講演内容の良さを更にグループ別に分かれての、話し合いの時間等や内容等もっと深めたかった。

3. 今回の勉強会のテーマについて感想や質問があれば記入してください

- 災害発生後の社協本部と現地の支部との関係がいま一つ分かりにくかった。
- 2019年の台風 19 号に関して、福島県 M 市や、K 市にお見舞いに行ったので実感が湧きました。
- 活動に参加したこともあり、身近に感じつつも、運営側の話が聞けてよかった。
- 大変良い内容でした。相模原市の災害ボランティアネットワークがその当時に、十分機能するだけの普段の準備ができてなかったのかなとの、思いがして、地元の災害ボランティアネットワークの状況が再確認した思いでした。

4. 運営者、講師へのメッセージがあれば記入してください

- 講師の方にはボランティアでお世話になり、大変感謝しております。クレームの声に心を痛めていると思いますが、沈黙の感謝の声が圧倒的に多いと思います。運営者の方々にも今回の企画は感謝していますが、今後の企画にも期待しています。
- PC の反応が悪く、Zoom に入るのに 1 時間近くかかってしまって講師の話は最後の 5 分程しか聞けなかったのでアンケートの内容には答えられないですが、入力必須項目なので回答しています。私自身相模原の災害ボランティアには 7 回(津久井地区 5 回、相模湖地区 2 回)参加してボランティアセンターの状況もみているので、添付されたレジュメと見合わせて内容は理解できます。グループ討議?も 4 人のうち 3 人は神奈川災ボラの会議・勉強会で日頃から常に一緒になる仲間なので話しは進みましたが、新鮮味に欠けたかも…ですね。
- 自分の身は自分で守る、自分たちの身は自分たちで守る、の大切さを再確認できました。
- 相模原市社協に、災害に対して、これだけ組織的の運営、活動できる人(三田様)がいたのはすごいと思う。十分に見習いたい。KFOP の役員の日ごろの人間関係作りの深さと見事さに感無量です。ありがとうございました。レポートが遅くなり申し訳ございません。
- 三田様、貴重なお話をありがとうございました。KFOP の皆様、貴重な機会をありがとうございました。

5. あなたご自身についてお答えください。

性別	男性	5
	女性	2
	無回答	0
年代	10代	
	20代	
	30代	1
	40代	
	50代	2
	60代	3
	70代以上	1
	無回答	

※自由記述については原則としてご記入いただいたまま掲載していますが、明らかに誤字脱字と思われる記述は修正させていただきました。

以上